

豊川の授業

16のポイント

私たち教師は、子どもたちのために常により授業をしたいと考えています。では、よい授業とはどんな授業でしょうか。よい授業をするために、何を大切に何をすればよいのか、その**指針**となるのがこの「**豊川の授業 16のポイント**」です。授業において大切なことがらを16にまとめました。

また、自分の授業を振り返るとき、授業を参観するとき、チェックリストを活用することを期待します。チェックすることが目的ではなく、授業の中で大切にしたいことをいつも意識して授業に取り組んでほしいという願いから作成しました。

わかる授業・楽しい授業を旨として、授業を大切に作る豊川の教師であってほしいと願っています。

豊川市現職研修委員会



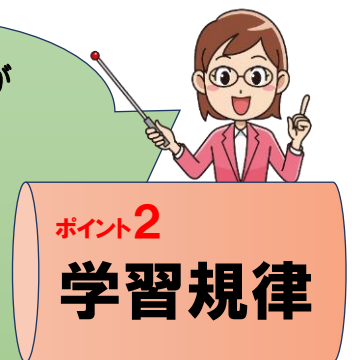
元気なあいさつで授業がスタートできましたか

元気なあいさつをすることで気持ちを切り替えることができるとともに、お互いを認め合う気持ちで授業に入ることができます。また、子どもと視線を合わせ、温かな雰囲気ではじめのあいさつをすると、子どもは安心して授業に入ることができます。そうすることで、子どもの様子を確認することもできます。気になる子がいたら、授業の中で声かけをしていきましょう。

学習規律（時間を守る、授業の準備、返事、話し方・聞き方）が守れていますか

- ・教師も授業開始時刻や終了時刻を守ることが大切です。
- ・授業に集中させるために、子どもの机の上は常に整理整頓をさせたいものです。
- ・指名されたときの返事や姿勢などを常に意識させましょう。
- ・話し方・聞き方のルールをていねいに指導しましょう。（話し手は、聞き手の方を向く。聞き手は、話し手に体を向けて相づちをうちながら聞く。）

定着させるには、できていないことを指摘するのではなく、できていることをほめる方が効果的です。特に、学期のはじめは毎時間確認するぐらいていねいに指導しましょう。



その時間で何を学ばせたいのか、授業のねらいがはっきりしていませんか

単元全体の学習の流れをふまえて、本時の授業のねらいや位置づけを明確にしてから授業に臨みましょう。そのために、学習のあしあとを記した掲示物や、ノートを活用することも効果的です。どんな力をつけるために、どんな課題を設定し、どんな教材を用いるのかを考え、1時間のゴールまでをイメージすることが大切です。



ポイント3

ねらい



ポイント4

課題

学習課題を子どもたちに明確に示しましたか

この1時間でどんなことを考えたり、活動したりするのか、中心となる課題を授業のはじめに示すことで、子どもたちは目的意識をもって学習を進めることができます。課題が明確に示されることで、授業の流れがねらいからはずれたときにも、課題に立ち返りやすくなります。黒板に課題を示し、子どもに言わせたり、ノートに書かせたりすることも効果的です。

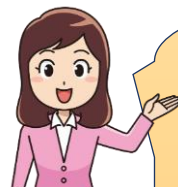


ポイント5

考えを
もたせる

課題に対する自分の考えをもたせることができていましたか

授業の中で、自分の考えをもたせる場を設定しましょう。考える視点を与えたり、ワークシートやノートを活用したりして一人一人に自分の考えをもたせたいものです。そうすることで、子どもたちは積極的に考えを交流したり、学びを深めたり広げたりすることができます。



ポイント6

考えを
表現する

自分の考えを表現する活動を取り入れていましたか

グループ・ペアなどの小集団や全体の場で、自分の考えを表現する場を設定しましょう。学習形態を工夫することで、全員参加の授業につながるのと同時に、考えを表現し合うことで学習に深まりが生まれます。その際、目的に合わせた学習形態を取り入れることが大切です。また、互いに話したり聞いたりする意識を高めるために、よい話し方、聞き方を具体的にほめ、価値づけながら向上を図りましょう。

さまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問ができましたか

その時間の目標達成に向け、吟味された主発問となっていることが大切です。子どもたちの学習意欲が高まり、多様な意見が出され、それぞれの考えや理解が深まる発問を考えましょう。思いつきの安易な発問を繰り返すことや、一問一答形式ばかりの授業は、避けましょう。また、言い直すと、内容が変わってしまうことが多いので、わかりやすく、一度で伝えるようにしましょう。



ポイント7

発問



子どものよさを認めるような言葉がけや、
それぞれの子どものに合わせたかかわりが、できていましたか

ポイント8
**教師の
姿勢**
(授業展開)

子どもの発言を受け止める姿勢を大切にしましょう。子どもの発言の後には、うなずいたり、よさを認めたり、「〇〇さんはどう思う？」と他の子どもに広げたりするとよいでしょう。机間指導や全体の場合でも、子どもを認め伸ばすような肯定的な言葉がけをしましょう。子どもなりの考え方を理解し、子ども一人一人のよい点や可能性を見つけ、積極的に評価していきましょう。



ポイント9
**教師の
姿勢**
(子どもの受容)

子どもの考えを生かして授業を進めていましたか

子どもの考えに寄り添い、発言やつぶやきを拾ってつなげることで、ねらいの達成に導くことが教師の役目です。子どもの言葉を教師が解説したり、すり替えたりしないように心がけましょう。発言を引き出す、つなぐ、広げる、ゆさぶりをかける、焦点化する、適切な資料を提示するなど、ねらいに応じた教師の出場を考えることが大切です。授業の主役は子どもです。教師の話し過ぎには気をつけたいものです。

声の大きさや話すスピード、抑揚、表情など、話し方を工夫しましたか

聞き取りやすい声の大きさやスピードで話すことが大切です。また、抑揚をつけたり豊かな表情で話したりすることで、子どもの集中力を高めることができます。特に注目させたい場面では、声の大きさやスピードを変えることも効果的です。場面に応じて、テンポよく指名したり、間を作ったりすることも重要です。特に教師のアイコンタクトは、授業にはなくてはならないものです。また、一度の指示で多くのことを伝えることは避けましょう。



ポイント10
**教師の
姿勢**
(話し方)



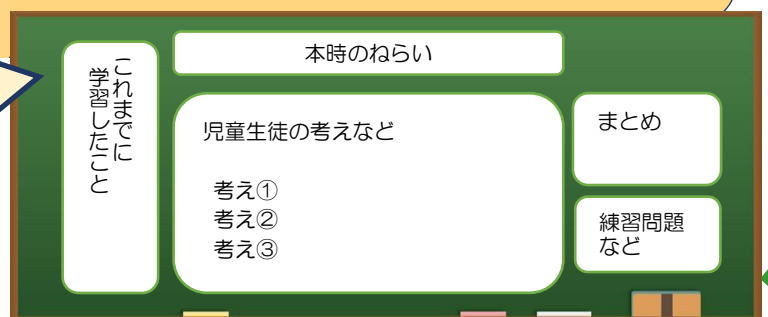
ポイント11
板書

子どもたちの考えがわかる構造的な板書になっていましたか

1時間の授業がどのように進み、どのように終着したのか、子どもの思考の流れがわかるように板書をしましょう。子どもが自分の考えと友だちの考えとの違いを自覚できるよう、構造化された板書を心がけることが大切です。ネームプレートの使用、チョークによる色分け、考えの関係を線や矢印で結ぶなど、視覚的にわかりやすい板書にしましょう。授業の流れを予想して板書計画を立て、授業後、自分の板書を見て振り返ってみるとよいでしょう。

構造的な板書とは …。

学びの道筋がわかるように構成を考えて、学習のねらい、児童生徒の考え、ねらいに対応したまとめを板書します。



具体物やICTを効果的に使って授業を行いましたか

具体物やICTは、子どもたちの集中力や問題意識を高めるのに効果があります。また、自分の考えを伝える場合にも有効です。言葉だけの授業で子どもをひきつけることは、なかなか難しいことです。

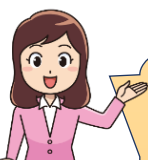
授業の内容を考えて、効果的に活用できるよう考えましょう。



ポイント12 教材・教具

明確な意図をもって机間指導をすることができましたか

机間指導では、多くの子にかかわれるよう配慮してまわりましょう。認める声かけをしたり丸付けをしたりして個別に支援することで、子どもたちのやる気を引き出すことができます。一人一人がどのような考えをもっているのかを把握し、次の展開につなげることが大切です。座席表を活用するのもよいでしょう。



ポイント13 机間指導

学んだことを実感できるような、授業のふりかえりの時間を確保しましたか

ふりかえりでは、友だちのよさや「できた」「わかった」という思いを語らせましょう。そうすることで、満足感や達成感を味わうことができます。新たな課題が生まれ、次時への意欲にもつながります。教科によっては、適応問題を解くことで授業のねらいをどの程度達成したかを教師が把握し、次時からの展開に生かしていくこともできます。



ポイント14 ふりかえり

ていねいなノート指導がされていますか

課題・まとめなどが一目でわかるノートづくりをていねいに指導しましょう。ワークシートを使う場合は、きちんと整理して学習のあしあとを残しておくことも大切です。また、考えを認め意欲をもたせるためにノートには朱書きをしましょう。



ポイント15 ノート指導

支援が必要な子に対する手立てを用意できていましたか

子どもをつまずきを予想し、それに対して何らかの支援ができるよう、あらかじめ手立てを考えておきましょう。個によって支援の仕方はさまざまです。ワークシートやヒントカード、具体物を用意するのもよいでしょう。全員が授業に参加できるような支援を考えておきたいものです。



ポイント16 個への支援